
加西市公民館・オークタウン加西の発展のための基本計画

居場所をプラス 全世代のワクワクをプラス

つながりを育む 学びのプラットフォームに

2023年3月31日

加西市教育委員会

目次

はじめに 計画の基本姿勢	1
1. 目的	1
2. 背景	1
3. 「加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」の取組み	2
I 社会教育施設の現状と課題	4
1. 加西市公民館・オークタウン加西の現状	4
2. 各施設の抱えている課題	13
3. 加西市社会教育施設の総合的な課題（委員からの意見のまとめ）	16
II 社会教育施設の近未来	17
1. 公民館の未来像	17
2. オークタウン加西の未来像	19
III 社会教育施設を未来に向けて発展させるための戦略	20
1. 短期的戦略	20
2. 中長期的戦略	22
IV 未来に向けた戦略の整理	25
おわりに 社会教育と加西の未来に向かって	29

はじめに 計画の基本姿勢

1. 目的

本基本計画は、令和3年に策定された第6次加西市総合計画「未来を拓く協創のまち加西～豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして」および第3期加西市教育振興基本計画「郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり～人生100年時代を生きる～」の基本理念をふまえ、本市4つの公民館およびオークタウン加西（以下、「社会教育施設等」とする）を、さらに刷新・発展させることを目的としたものです。

2022年7月より、内外の有識者等の協力を得て、「加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討会」を組織し、現在の公民館の課題及び近未来においてあるべき社会教育施設等の姿を検討してまいりました。そこで検討され導き出された理想をふまえ、短期・中長期的戦略をもって、その具体化をめざします。

2. 背景

社会教育は、社会教育法において、「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）」と定義されています。そして、社会教育が十全に行われるための「環境醸成」が社会教育行政の役割とされています。もちろん、教育委員会および社会教育行政だけで豊かな市民¹・住民²の学びを実現できるわけではありません。市行政および多種多様な組織・団体との密接な連携・協力があって、はじめて、着実に社会教育を推進する環境醸成ができるというよいでしょう。

「環境醸成」のひとつに、施設の管理・運用があります。わが加西市には、社会教育行政の所管するものとして、4つの公民館をはじめ、地域公民館（地区公会堂）、図書館、青少年研修センターがあります。その他、市民会館、コミュニティセンター、地域福祉支援施設（健康福社会館）などの社会教育類似施設も整備されています。また、教育基本法および学校教育法・社会教育法において連携・協働が明記されている「学校」も、あらゆる世代の学びを生む重要な社会教育関係組織のひとつです。これら一つひとつが、現在の加西市においてどのような意味をもつのか、あるいは、近未来の加西市において、どのような機能と役割を果たすべきなのかが検討されなければなりません。そして、そうした検討とともに、理想の実

¹ 加西市在住、在勤、在学など、広く加西市に関わっている人

² 加西市在住の人

現に向けて施設の外形・内実を改良・刷新することが求められるとあってよいでしょう。

学校は、すでに、「加西 STEAM」で宣言されているように、地域の多様な専門性や特殊性と豊かに連携して、STEAM 教育³という新しい教育を推進しようとしています。ややもすると、科学・技術重視の教育と誤解されがちですが、豊かな人間性・温かな地域のつながりという学びの基盤があってこそ実現する教育です。学校が社会教育をはじめとする地域の多様な教育資源とどれだけ有機的につながれるかが成否の鍵といえるでしょう。その意味でも、学校教育の新展開に柔軟に対応し得る社会教育施設を創らなければなりません。

さらに、目を世界に転じれば、地球的課題として SDGs（持続可能な開発目標）⁴が提唱されています。実は、SDGs は、われわれの身近な暮らしと深い関係があり、われわれの変化・学びがなくては実現できない課題です。ここでも、SDGs 運動を下支えする活動として社会教育には大きな期待が寄せられています。ESD（持続可能な開発のための教育）⁵は、新しい社会教育の柱になることでしょう。ESD を社会教育・生涯学習の新しい軸とするためには、環境・福祉・人権・国際理解・ビジネスなどの複数の領域で活躍する人たちや当事者性の高い人たちだけではなく、あらゆる人たちが自分の持ち前を發揮しつつ、互いに力を併せる「力の融合」が求められます。あらゆる人々が、人権・民主主義・自由・平和の価値を大切にしながら持続可能な社会を実現する主体になるための新しい学びが希求されているのです。こうした現代社会のニーズに応えられる社会教育が生まれるには、どのような環境醸成が求められるのかが、鋭く問われているということです。

本計画は、こうした背景をふまえ、未来につながる学びを生む公民館等の社会教育施設の改善・刷新の方向と、その具体的な方策を提示しようとするものです。

3. 「加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」の取組み

このような目的・背景のもと、加西市公民館およびオークタウン加西の近未来像およびその実現のための方策を検討する「加西市・オークタウン加西あり方検討委員会」を、下記のように実施してまいりました。

³ STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に A（Art）を加えた新しい教育。A は、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い意味をもつ。STEAM 教育は、教科等横断学習だけではなく、学校での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための学習を含む。

⁴ 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17 のゴール・169 のターゲットから構成される。貧困・福祉・健康などの人間の生存に関する課題から、地球温暖化・エネルギー問題まで多岐にわたる課題を、いのちの持続性を尊重する立場で総合的に推進する運動の行動目標。

⁵ 持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習や教育活動の総称。SDGs は具体的な行動目標。

- 第1回会議 日時：令和4年8月17日（水）10時～12時15分
場所：加西市役所 5階 大会議室
内容：現状と課題の説明
出席者：委員13名、教育長、教育部長、生涯学習課長、事務局2名
- 第2回会議 令和4年10月3日（月）9時～12時
場所：善防公民館 2階 大研修室
内容：課題と理想像について協議
出席者：委員14名、教育長、教育部長、生涯学習課長、事務局2名
- 第3回会議 日時：令和4年10月25日（火）9時～12時
場所：南部公民館 2階 農事研修室
内容：課題と理想像のまとめ、戦略について協議
出席者：委員13名、教育部長、生涯学習課長、事務局2名
- 第4回会議 日時：令和4年12月2日（金）9時～12時
場所：北部公民館 2階 視聴覚室
内容：戦略についてまとめ
出席者：委員13名、教育長、事務局2名
- 第5回会議 日時：令和4年12月21日（水）13時～16時
場所：オークタウン加西 1階 研修室
内容：報告書について協議
出席者：委員13名、教育長、教育部長、生涯学習課長、事務局2名
神戸大学生6名
- 第6回会議 日時：令和5年3月27日（月）9時～11時
場所：市民会館 2階 視聴覚室
内容：報告書最終確認
出席者：委員14名、教育長、教育部長、生涯学習課長、事務局2名

本計画は、本委員会の討議・検討をもとに作成したものです。第1章では、加西市社会教育施設の現状と課題、第2章では、社会教育施設の近未来、第3章では、社会教育施設を未来に向けて発展させるための戦略、第4章では、未来に向けた戦略の整理について、まとめています。

I 社会教育施設の現状と課題

1. 加西市公民館・オークタウン加西の現状

①職員配置

公民館は館長1名と職員2名、オークタウン加西は館長1名と職員1名の職員配置で、全員が会計年度任用職員（臨時職員）となっています。また、夜間・休日についてはシルバー人材センターに管理を委託することが多くなっています。

主な業務としては、貸館、主催講座・シニアカレッジ「かしの木学園」等の開催、登録グループ活動支援があります。（中央公民館は貸館なし）

	中央公民館	善防公民館	南部公民館	北部公民館	オークタウン加西
職員数	3人	3人	3人	3人	2人
(内訳)	館長1名 職員2名	館長1名 職員2名	館長1名 職員2名	館長1名 職員2名	館長1名 職員1名

※全員会計年度任用職員

②施設の状況

加西市には社会教育法に基づいた公民館として各中学校区に1館ずつ4館の公民館が設置されています。また、体育館やテニスコートなどを併設した研修施設としてオークタウン加西が設置されています。

善防・南部・北部公民館とオークタウン加西はいずれも館の管理を行うとともに、主催講座、登録グループ活動など館の運営を行っています。一方、中央公民館は、市民会館の一面を事務所としており、主催講座や登録グループ活動についても市民会館の施設を利用しています。

いずれの施設も建築から年数が経っており、40年以上が経過している施設もありますが、すべての施設で耐震化は完了しています。

施設名称	用途	構造 階数	延床面積	建築年 経過年数	耐震	備考
中央公民館 (市民会館内)	公民館	SRC造 3階	文化ホール 2,987 m ² コミセン 2,995 m ² (うち 約50 m ²)	昭和54年 (1979年) 43年	有	
善防公民館	公民館	RC造 2階	2,250 m ²	平成7年 (1995年) 27年	有	体育館 音楽スタジオ アトリエ
南部公民館	公民館	RC造 2階	1,000 m ²	昭和63年 (1988年) 34年	有	体育館 農産加工実習室
北部公民館	公民館	S造 2階	1,070 m ²	昭和57年 (1982年) 40年	有	体育館
オークタウン 加西	研修所	S造 1階	684 m ²	昭和62年 (1987年) 35年	有	敷地内に テニスコート
	体育館	RC・ S造 1階	564 m ²	昭和63年 (1988年) 34年	有	

※SRC：鉄骨鉄筋コンクリート、RC：鉄筋コンクリート、S：鉄骨

③修繕状況

経年劣化による修繕を順次進めるとともに、空調や音響設備などを随時更新し、利用者にとって使い心地の良い空間が提供できるよう、環境整備を行っています。

各施設とも過去10年間で1,000万円前後の修繕を行っており、主な修繕内容としては、平成24年～26年にかけてはエアコン、受変電設備、音響設備などの機器類の修繕が目立ち、近年は、台風や豪雨の影響もあって雨漏りが増えていることから、防水シートの張替や屋根の修繕が続いています。また、クロスの破れや床の汚れなど内装の修繕やトイレ、手洗い等水回りの修繕も増えてきています。

○過去 10 年間の修繕額

(万円)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
善防公民館	32	67	117	208	259	123	105	27	82	34	1,054
南部公民館	83	186	100	192	84	128	113	134	147	213	1,380
北部公民館	282	64	185	65	110	13	56	149	33	12	969
オークタウン加西	0	77	8	98	42	101	58	226	229	93	932
合計	397	394	410	563	495	365	332	536	491	352	4,335

○主な修繕内容

施設	内容
善防公民館	H25：非常放送設備修繕、自動ドア修繕 H26：音響設備修繕、パッケージエアコン修繕 H27：自動ドア修繕、エレベーター修繕 H28：屋上アスファルト防水修繕、非常誘導灯修繕 H29：台風による倒木処理、廊下ダウンライト修繕 H30：排水マス修繕 R2：タイルカーペット張替
南部公民館	H24：農事青年研修室エアコン入替 H25：和室エアコン修繕、トイレ修繕（1，2階） H26：農産加工実習室エアコン修繕 H27：ベランダ・非常階段修繕、農事研修室空調設備改修、給湯器修繕 H28：体育館シャッター取付 H29：多目的ホール舞台修繕 H30：トップライト改修、外壁セパ穴補修 R1：駐車場舗装補修 R2：駐車場ライン引き直し、調理台修繕 R3：屋根防水シート修繕、クロス張替（1階）、階段手摺取付、建具修繕
北部公民館	H24：受変電設備修繕 H25：庇雨漏り修繕 H26：体育館修繕、トイレ洋式化、事務所空調設備修繕 H27：床修繕（調理室、2階廊下） H28：屋根防水シート修繕 H30：瓦・陸屋根防水修繕 R1：倉庫補修、トイレ補修（1階） R2：屋根防水シート修繕
オークタウン 加西	H25：子育て学習センター物置修繕、子育て学習センターエアコン修繕 H27：脱衣室修繕、火災通報装置修繕 H28：研修棟ドア修繕 H29：ブラインド、カーテン取付工事 R1：排煙窓修繕、廊下クロス張替え（研修棟）、屋根・天井修繕（クラブハウス） R2：玄関・廊下・事務室床張替（研修棟）、駐車場舗装、給水管布設修繕 R3：廊下床・クロス張替（体育館）、トイレ手洗修繕（研修棟）

④利用状況

各施設の利用者数は、過去10年間の推移を見ると、平成25年度の118,641人をピークとして減少傾向にはありますが、令和1年までは10万人前後の利用者を維持していました。しかし、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響による施設の利用制限や登録グループ等の活動休止などもあり、利用者数は大きく減少しています。

各施設の稼働状況を館全体で見ると、令和3年度実績で1番利用の多い善防公民館が16.1%、1番少ない北部公民館が8.3%の利用率となっています。

部屋別に見ると体育館や収容人数の多い研修室等は20～30%の利用率となっていますが、収容人数の少ない部屋や料理室などの利用団体が限られる部屋は10%以下の利用率となっています。

○利用者数の推移

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中央	17,768	16,511	15,693	12,177	13,924	7,982	9,802	8,464	5,238	5,374
善防	34,639	41,259	46,309	40,373	40,457	41,816	38,747	37,942	19,234	23,461
南部	21,672	24,184	22,032	18,250	18,399	17,943	19,561	19,561	12,655	13,525
北部	18,526	21,539	9,797	11,507	11,140	12,421	10,952	13,417	8,336	7,998
オークタウン	—	15,148	24,005	25,394	26,108	15,684	24,526	20,667	14,119	16,714
合計	92,605	118,641	117,836	107,701	110,028	95,846	103,385	99,841	59,582	67,072

※H26 北部公民館からオークタウン加西に「ほくぶキッズ（子育て広場）」が移動

※H29 オークタウン加西改修工事のため研修棟は4月～8月分の利用者

※R2, R3 は新型コロナウイルス感染症のため閉館、利用制限期間あり

○施設稼働状況（令和3年度実績）

施設名	利用率
善防公民館	16.1%
南部公民館	14.7%
北部公民館	8.3%
オークタウン加西	14.0%

⑤講座等の開催状況

主催講座は、年間を通じて開催する連続講座と夏休みのこども講座など単発の講座があります。子育て中の母親世代にも参加いただけるように、託児付き講座や、こども・親子講座なども企画し、幅広い世代が公民館を利用できる講座を各館で開催しています。令和3年度は健康、料理、趣味、伝統文化など48講座を開催し、延5,445人の方が受講しています。

シニアカレッジ「かしの木学園」は、健康、歴史、環境、人権など各館で9回、4館合同の学習会1回の計10回の様々な講座を開催し、仲間づくりや生きがいづくりのきっかけとなっています。卒業制度がなく、希望すれば継続して参加することができるため、多くの方に受講いただいておりますが、一方で参加者の固定化が見受けられます。そこで行われているクラブ・サークル活動は、南部公民館で実施されており、グラウンドゴルフ、歌声くらぶなど4つのクラブが活動しています。

各施設で実施している主催講座及びシニアカレッジ「かしの木学園」受講者数の過去10年間の推移を見ると、平成27年から令和1年にかけては1万人前後の方が講座を受講していましたが、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響による施設の利用制限やコロナ不安により受講者が減少しています。

○主催講座（令和3年度実績）

施設名	講座数	主な講座	延受講者数
中央公民館	11講座 (託児付2)	歴史、パン・スイーツ、ノルディックウォーク、レザークラフト、発酵料理 こども講座（茶道、生け花、盆栽、陶芸、苔玉）	1,424人
善防公民館	9講座 (託児付3)	パン・スイーツ、姿勢改善、リフレッシュエクササイズ、健康体操、アンチエイジング、多文化共生 こども講座（将棋、工作、巻きずし）	1,396人
南部公民館	10講座 (託児付1)	エクササイズ、ヨガ、ピアノ、男性講座（ものづくり、料理）、健康体操、環境学習、手芸、光のオブジェ、ラインスタンプ作成 こども講座（ワークショップ）	1,183人
北部公民館	11講座 (託児付3)	パン・料理、ヒップホップダンス、アロマ・ハーブ、健康マージャン、ゴルフ、指圧マッサージ、雑貨づくり、健康体操 こども講座（絵画、三味線、絵手紙）	1,164人
オークタウン 加西	7講座	ヨーガ、山野草、グラウンドゴルフ、木工 こども講座（アドベンチャー、工作、星空観察）	278人
合計	48講座		5,445人

○シニアカレッジ「かしの木学園」(令和3年度実績)

施設名	学習内容	開催回数	延受講者数
中央公民館	健康、歴史、人権、音楽、環境、自己啓発 等	8回	620人
善防公民館	健康、教養、人権、音楽、消費者、防犯・防災 等	8回	267人
南部公民館	健康、歴史、教養、消費者 等	8回	941人
北部公民館	健康、教養、音楽、環境、防犯・防災 等	8回	451人
合計			2,279人

※第1回と第10回(合同学習会)は新型コロナウイルスの影響で中止

○クラブ・サークル活動(令和3年度実績)

活動名	回数	参加者数
かしの木グラウンドゴルフ	25回	580人
かしの木歌声くらぶ	10回	118人
かしの木俳句	18回	101人
かしの木お楽しみ倶楽部	6回	44人

○受講者数の推移(主催講座、シニアカレッジ「かしの木学園」)

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中央	2,328	2,819	2,714	2,534	1,815	1,975	1,781	2,145	1,391	2,044
善防	1,948	1,853	2,142	2,480	2,702	3,283	3,484	2,787	1,490	1,663
南部	1,824	2,219	2,016	2,328	2,114	2,158	2,038	2,181	1,572	2,124
北部	1,829	2,071	1,599	2,162	2,464	2,543	2,189	1,943	1,326	1,615
オーク タウン	0	0	164	188	281	258	456	348	255	278
合計	7,639	8,962	8,635	9,692	9,376	10,217	9,948	9,404	6,034	7,724

※R2, R3は新型コロナウイルス感染症のため閉館、利用制限期間あり

⑥登録グループの活動状況

登録グループとは、公民館に登録して自主的に活動しているグループで、過去10年間の推移を見ると、各グループとも高齢化が進んでおり、全体的に減少傾向となっています。特に令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響により活動を休止し、中にはそのまま解散してしまったグループもあります。

登録グループは、定期利用（週1回以内）の使用料の免除やコピー機等の機器の使用などのメリットがありますが、一方で、登録グループの協議会への参加や施設管理協力を負担と考えるグループも増えているようです。

主催講座からの登録グループ化も支援していますが、なかなか難しいのが現状です。

○登録グループ数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中央公民館	41	40	38	37	35	33	32	30	27	25
善防公民館	42	42	37	38	39	40	40	39	36	35
南部公民館	35	27	28	28	29	29	28	28	26	26
北部公民館	26	25	24	23	24	28	26	27	26	27
合計	144	134	127	126	127	130	126	124	115	113

○施設別（令和3年度実績）

施設名	グループ数	登録人数	参加延人数
中央公民館	25	308人	4,020人
善防公民館	35	428人	6,882人
南部公民館	26	305人	5,113人
北部公民館	27	292人	4,059人
合計	113	1,333人	20,074人

○種類別（令和3年度実績）

種類		グループ数	登録人数	参加延人数
書道	書道、小筆、ペン字	6	60人	879人
絵画等	ちぎり絵、絵てがみ、水彩画、木版画	6	57人	997人
写真	写真	1	9人	194人
手編み	手編み	2	19人	254人

和裁	和裁	1	9人	175人
表装	表装	2	15人	186人
木工	木彫り、竹細工	3	32人	536人
その他手工芸	ちりめん飾り、陶芸、さをり織り	3	30人	644人
日本舞踊	新舞踊、銭太鼓、剣扇舞、扇舞	4	20人	333人
ダンス	社交ダンス、フラダンス	3	27人	846人
その他表現	マジック、演劇、フォークダンス、南京玉すだれ、話し方、腹話術、落語	7	80人	827人
歴史 古文書	歴史、古文書	3	49人	286人
囲碁	囲碁	3	53人	673人
文芸	短歌、俳句	2	19人	180人
園芸	ガーデニング、山野草、造園	4	38人	321人
音響	音響	1	11人	11人
伝統文化	茶道、華道	3	20人	158人
着付け	着付け	1	8人	160人
料理	料理、健康料理	2	25人	75人
農産加工	農産加工	2	20人	138人
そば打ち	そば打ち	3	36人	454人
パンづくり	パンづくり	1	10人	82人
和菓子	和菓子	1	5人	59人
ヨガ	ヨガ	3	76人	2,144人
体操	3B体操、健康体操、 体感ストレッチ	5	92人	1,453人
その他スポーツ	剣道、太極拳、バドミントン、居合道、スポーツ吹矢、バレーボール、トランポリン、バウンドテニス	10	122人	2,782人
カラオケ	カラオケ	3	23人	395人
コーラス	コーラス	5	127人	832人
民謡	民謡、播州音頭	4	27人	431人
詩吟	詩吟	2	18人	591人
器楽	大正琴、ハーモニカ、和太鼓、バンド、リコーダー、ギター、ハンドベル、オカリナ、三味線、邦楽、音楽あそび	17	196人	2,978人
合計		113	1,333人	20,074人

⑦公民館まちづくり出前講座

平成 24 年 12 月から登録グループの社会貢献活動として、公民館まちづくり出前講座を実施しています。

地域の団体等の要請に応じて、登録グループが出向き、無料で講座等の講師を務めることにより、公民館活動で得た知識や技術を地域へ還元しています。

過去 10 年間の活動回数の推移を見ると、平成 24 年度以降、順調に回数を増やしていましたが、令和 2 年度以降は、新型コロナウイルスの影響により、登録グループの多くが活動を休止するとともに、主な活動先である各町の敬老会やサロン活動なども縮小や中止となり、回数が大きく減少しています。

○まちづくり出前講座活動回数の推移

(回)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
中央公民館	1	17	43	13	18	12	12	13	2	3
善防公民館	1	7	2	9	9	6	11	11	2	2
南部公民館	1	9	10	9	15	12	17	35	13	5
北部公民館	0	7	4	5	7	6	12	28	2	6
合計	3	40	59	36	49	36	52	87	19	16

2. 各施設の抱えている課題

中央公民館の課題

市民会館の一画を事務所としており、他の3公民館やオークタウン加西と違い、施設管理を行っていません。主催講座や登録グループ活動についても市民会館の施設を利用していますが、市民会館の指定管理者が同じような講座を実施しており、利用者にとってわかりにくい状況となっています。

市民会館を利用しているため、文化ホールをはじめ、利用できる部屋の数や種類は豊富ですが、体育館は併設されていません。

善防公民館の課題

加西市の公民館のなかで一番新しい公民館ですが、建築から27年が経過しており、施設全体で修繕が必要となってきています。また、施設の一部が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）⁶に指定されています。

出入口の多くが階段で正面玄関以外スロープがなく、高齢者や体の不自由な方にとって利用しにくい部分があります。

4つの公民館のなかでは一番広く、利用できる部屋の数や種類も豊富で、音楽スタジオやアトリエなど他館にはない施設があるため、市外の方も含め、多くの方が利用されています。館内には子育てのためのつどいの広場として「ぜんぼうキッズ」が併設されており、主に就学前の親子のふれあいや子供どうし、親どうしの交流の場となっています。

また、善防山、笠松山が近くにあり、登山やハイキングのため、近隣市町はもちろん、県外からも多くの方が訪れ、施設の駐車場やトイレを利用しています。

南部公民館の課題

建築から34年が経過し、その間大規模な改修が行われていないことから施設が老朽化しており、必要に応じて修繕は行っていますが、大雨や台風時に雨漏りが常態化するなど大規模

⁶ 土砂災害が発生した場合、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがあると認められた土地の区域であり、市町村による警戒避難体制の整備が義務付けられる区域。

な修繕が必要となってきています。元々、農村環境改善センターとして建築されているため、利用できる部屋の数も種類も多くありません。

出入り口の多くが階段で正面玄関以外スロープがなく、また、大人数で利用できる部屋が2階にしかありませんが、エレベーターが設置されていないため、高齢者や体の不自由な方には利用しにくい施設となっています。

九会地区を中心に地域の各種団体（シニアクラブ、ふるさと創造会議、スポーツ21など）が定期的に利用しており、地域の拠点としての位置づけができています。

また、シニアカレッジ「かしの木学園」の活動が盛んであり、200名近い登録者で開催場所に困るほどになっています。公民館の中で唯一、「かしの木学園」のクラブ・サークル活動が行われており、活性化につながっています。

避難所にも指定されていますが、体育館にはエアコンが整備されておらず、近年の気候の変化から、通常時の利用も含め、夏や冬の利用が難しくなってきています。

玄関ホールが狭く、交流スペースとしての利用が難しいため、利用者以外の方には気軽に立ち寄りにくい施設となっています。

北部公民館の課題

建築から40年が経過しており、その間大規模改修も行われていないことから施設が老朽化しており、移築または他施設への移転も含めた検討が必要となっています。そのため、緊急対応が必要なものや軽微なものを除き修繕を保留しています。また、施設の一部が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されています。

出入り口の多くが階段で正面玄関以外スロープがなく、また、大人数で利用できる部屋が2階にしかありませんが、エレベーターが設置されていないため、高齢者や体の不自由な方には利用しにくい施設となっています。

避難所にも指定されていますが、体育館にはエアコンが整備されておらず、近年の気候の変化から、通常時の利用も含め、夏や冬の利用が難しくなってきています。

玄関ホールが狭く、交流スペースとしての利用が難しいため、利用者以外の方には気軽に立ち寄りにくい施設となっています。

☆公民館共通の課題

主催講座、登録グループともにシニア層、特に女性の参加者が多く、男性や若年層の参加者は少なくなっています。

現役世代や学生向けの講座については、日曜、祝日が休館日のため、土曜日に集中してお

り、より多くの人や様々な世代の人に学びの場を提供するためには日曜や祝日の開館も必要ですが、職員数も含めた勤務形態の検討が必要になります。

主催講座や高齢者大学「かしの木学園」の講座を企画する際に魅力ある講座を提供し、講座回数を増やすためにも、予算を拡充する必要があります。

登録グループについては高齢化が進み、人数が減少するとともに、内外の横のつながりを持つことにわずらわしさを感じる利用者も増えてきています。また、当該の活動以外の施設清掃作業や公民館まつり等への参加に負担を感じるグループもあり、登録グループに新しく加入しようとする団体や登録グループへの新規参加者は、減少傾向にあります。

職員（3名）は館長を含め全員が会計年度任用職員であり、かつ、シフト制のため、全員がそろえることは少なく、事業の打ち合わせなどを行うことも難しくなっています。また、夜間・休日の利用は原則シルバー人材センターに委託しており、臨機応変な対応が難しくなっています。

善防・南部・北部公民館は中学校が隣接しており、公民館まつりなど連携しての活動もできていますが、中学校の統廃合も検討されていることから、今後も公民館と学校、地域とも連携していける方法を考えていく必要があります。

☆オークタウン加西の課題

建築から35年が経過し、その間大規模改修も行われていないことから施設が老朽化しており、定期的、または必要に応じて適宜修繕は行っていますが、合宿室など大規模な修繕を検討する必要があります。

通常の利用は、テニスコートや体育館、グラウンドの定期利用が中心となっており、それ以外の利用は限られています。アウトドア人気もあり、バーベキュー・キャンプ場サイトの利用者は増えつつありますが、平地が少なく、利用人数に制限があります。また、テント泊を希望される方や問い合わせも多くありますが、夜間の利用は禁止しており、宿泊は研修棟の合宿室等を利用いただいています。実際に整備するとなれば大規模な工事が必要となります。バーベキュー・キャンプ場サイトは、その全域が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されており、利用に注意が必要となります。宿泊利用はジュニアスポーツ団体の合宿を中心に戻ってきていますが、市外の団体の利用が中心となっています。館内には子育てのためのつどいの広場として「ほくぶキッズ」が併設されており、主に就学前の親子のふれあいや子供同士、親同士の交流の場となっています。

職員（2名）は館長を含め全員が会計年度任用職員であり、かつ、シフト制のため、一人勤務となることも多く、業務の引継ぎ等も含めて難しくなっています。夜間・休日の利用は原則シルバー人材センターに委託しており、臨機応変な対応が難しくなっています。

3. 加西市社会教育施設の総合的な課題（委員からの意見のまとめ）

① 市民・住民に公民館の「本当の姿」が知られていない？

公民館は、高齢の人たちだけの学び・活動の場だと思われているのではないのでしょうか。実は、子どもも若い子育て世代も、アクティブな青年たちも、公民館を活用しています。「使えるならば使いたい」という人たちに公民館の実像が伝わっていないのではないのでしょうか。

② 積極的に活動している人が「伝えられる」仕組みがまだまだ少ない？

公民館の利用者は、実は、地域住民の代表です。今は利用していないが、いずれは参加したいと思う人たちが、これからどんどん増えてほしいと思います。そうした人たちに公民館活動のすばらしさを伝えるのが、現在、積極的に活動している人たちです。公民館活動を発展させるリーダーなのです。しかし、現在、「伝える仕組み」は、十分とはいえません。公民館利用者が未来の利用者とふれあい、公民館のすばらしさを伝えることのできる機会が不足していると分析しています。

③ 施設の独自性や活動の個性が見えにくい？

4つの公民館、オークタウン加西は、社会教育施設としての標準的かつ共通の取り組みが企画運営されています。しかし、各地域の違いを反映した独自の取り組みは数少なく、地域の力を活かし切れていない状況にあります。他の施設とは異なる活動がそれぞれ明確になれば、住民が、自分の住む地域の社会教育施設だけでなく、他の社会教育施設を視野に入れて、より豊かに学ぶ環境が生まれることにもなるでしょう。各社会教育施設が独自性を発揮し個性的になるためのインセンティブ（刺激・メリット・財政的支援）が不十分であると分析しています。

④ 建物・施設の老朽化に対策が不十分では？

多くの社会教育施設は、昭和の後期に建設され、老朽化が進んでいます。施設なき集いや空間なき学習は現実的ではありません。いずれ、施設を建て替えるか、代替的空間を探すか、選択が迫られることとなります。他の公共施設の活用、他の社会サービスを巻き込んだ統合施設（インテリジェント化）、あるいは、加西市にない施設、たとえば、博物館・美術館・資料館などを併設した社会教育施設をあらたに建設するという可能性もあります。社会教育施設をブラッシュアップ（発展・刷新）することは簡単ではありませんが、重要課題のひとつと認識しています。

II 社会教育施設の近未来

第1章でまとめた課題をふまえつつ、近未来の社会情勢を展望して、公民館・オークタウン加西のあるべき姿を、以下のようにまとめました。

1. 公民館の未来像

原則として、住民が価値を認めてくれる公民館／住民が関わりたくなる公民館／独自の存在感をもった公民館／地域外の人が立ち寄りたくなる公民館、を大切にします。具体的には、以下のような未来像です。

A だれでも自由に「学び合い、楽しめる」公民館を

多文化共生の空間として、幅広い世代の人が、障害・ジェンダー・ルーツ（国籍）などに関わらず、それぞれの関心・興味・ニーズに合わせて自由に楽しみ、学び合うことができる場を創りたい。

…たとえば、具体的な企画づくりに、社会的マイノリティと呼ばれる人々が積極的に関わっていけるような、開放的な公民館を創りたいと考えています。

B いつでもだれでも気軽に「立ち寄れる」公民館を

市民だれもが「わが公民館」「居心地のいい場所」と感じ、温かく迎えてくれる人がいつもだれか居て、人のにぎわいを生み出し味わうことのできる公民館を創りたい。

…加西市以外からの来訪者も「加西を知る旅の立ち寄り所」と思ってくれるような公民館になることが理想です。

C 多様な人・活動と「つながりを作れる」公民館を

近隣のさまざまな地域・市民活動、文化・芸術・科学・スポーツ・平和・福祉に関する活動、あるいは、SDGs（持続可能な開発目標）に関する活動・イベントに直接または間接的に触れることのできる場を創りたい。

…「なにかをしたい」と思っている人が自分の求める活動を見つけることや、あるテーマについてもっと「深く学びたい」「挑戦したい」と思っている人が、そのきっかけをつかむことのできる場になってほしいものです。また、「加西 STEAM 宣言」にあるように学校での学び方も変わりつつあります。そうした新しい学び方を多くのおとなが

見守り支えられるように、公民館の特色ある活動が、学校などでの子どもの学びと有機的につながり、両者がともに発展することをめざします。

D 住民の「ふだんのくらしを幸せにする」公民館を

多様な団体・組織（自治体、民間企業、地縁組織、各種法人）と連携・協働し、ふだんのくらし（労働・余暇・学習など）を豊かにする社会サービスや社会資源と住民のニーズをつなげることや、住民相互の「ふだんのくらしをしあわせにする」活動（広い意味での「福祉活動」）を促し支えることのできる「ふくし」の拠点を創りたい。

…近年、地域福祉の推進の中で「プラットフォームづくり」が推奨されています。社会教育施設がその一端を担うようになってほしいものです。

E 住民が「互いの持ち前を学び合う」公民館を

互いに異なる生活・活動をしている人たちが知り合い、互いの持ち前（経験・個性・知識・技能・社会関係など）を交換したり、既に知り合いの人同士が互いの新しい持ち前に気づいたりすることで、刺激し合い、学び合う関係が生まれるような場を創りたい。

…上から教わるだけではなく、互いに対話・交流を通して学びあうことが社会教育のモットーです。こうした場がさらに広がってほしいものです。

F 住民が「社会を変える動きにワクワクできる」公民館を

活動やイベントに参加することが、新しいまち・社会・世界を作ることなのだ、と実感できるような社会的事業を生む公民館を創りたい。

…あらゆる住民が、公民館等で、互いに学び合ったり、社会を変えるさまざまな動き（くらしづくり、地域づくり、まちづくり、社会づくり）に触れたりしながら、変化を生み出す動きの面白さを感じ取ってほしいものです。

G まちに学びが波及する起点としての公民館を

学ぶことの意味や学びの成果が、直接参加している人たちだけではなく、より多くの人に広がり、学びの文化が生まれる公民館を創りたい。

…公民館での活動とその成果が、利用者から他の市民・住民の生活に波及していくために、発表・公開の機会がたくさん生まれてほしいものです。また、社会教育施設以外の場（たとえば、学校など）での学びの様子やそこに参加・協力するための情報も、市民・住民にお伝えできる施設（中継施設）になってほしいものです。

2. オークタウン加西の未来像

宿泊室・テニスコート・体育館・グラウンド・デイキャンプ場・研修室などを十全に活用しながら、以下の機能が高まってほしいと考えています。

H 青少年の探究的な活動を支援する場に

学校で行われる探究的な学習、特に STEAM 教育に求められる、自然探索やスポーツ活動あるいは各種ワークショップを、共同宿泊体験を通して提供できる施設を創りたい。

…これまでの青少年研修施設としての独自性・特性を保ちながら、学校・公民館・他の公共施設と連携した体験学習のプログラムを提供できる拠点として発展してほしいものです。

I 「加西に帰りたい」をサポートする場に

住民と加西出身の人たちが、ぬくもりを感じる空間や特徴的な体験活動などを通して、互いにご縁を紡ぎなおすことができる研修施設を創りたい。

…たとえば、加西出身者がお墓参りや地域行事（例えば、お祭りや地域イベント）などで帰省するときに、住民とともに気安く利用できる施設になってほしいものです。スポーツ・アウトドア・各種体験プログラムをだれでも利用でき、それらを通して旧交を温めることのできる施設が理想です。「加西に帰りたくなった」と思われたら最高です。

J 加西から地球を感じ考える研修の場に

利用者と地域在住の人とが楽しく気軽に交流しつつ、多元的に研修を体験・実施することのできる場を創りたい。

…各公民館と連携した交流企画を通して、地域内外の人が、加西の多様な SD（持続可能な開発）のフィールド（たとえば、里山保安林管理、河川湖沼環境保全、古民家再生、移住促進、農村体験、戦争遺跡保存、工場団地見学、地域祭りなどの年中行事など）を知り、地球の未来を感じ・考えるロマンが育まれるような場になってほしいものです。

III 社会教育施設を未来に向けて発展させるための戦略

第2章で提起した社会教育施設の未来像を具体化するための戦略を検討いたしました。主に2025年度内において実施の緒につく短期的戦略と、10年スパンで実現を試みる中長期的戦略に分け、その具体的な内容を整理します。

1. 短期的戦略

・公民館等の運営体制の強化

①生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置

加西市全体の教育・学習・文化活動を活性化させるためには、定期的・制度的なプログラムやしくみだけではなく、よりタイムリーに求められる企画を立案・運営する必要があります。それを全市的に調整しながら進めていくのが「社会教育プロデューサー」です。

具体的な学習活動の立案・進行のスキルを駆使するだけでなく、企画を実行するための組織化や資源の確保も行います。教育行政内部だけではなく、一般行政、民間事業者などと連携しながら、求められる事業を具体化することが主な役割です。

②各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成

社会教育プロデューサーと協働して、各公民館独自の個性的な活動を立案・実施することを主たる役割とする職員の配置・養成を試みます。

③職員体制の充実

地域住民のニーズに応え、機能を十分に発揮するためには、職員体制の充実が不可欠です。これから更なる発展を目指すうえで、職員の増員等、適切な人員配置が必要であると考えます。

④「公民館ボランティア」の活躍の場づくり

職員や公民館活動を日常的に支えてくださる「公民館ボランティア」の仕組みを整えます。詳細は、各公民館で公民館コーディネーターなどを中心に検討してもらうこととなりますが、公民館ボランティアに期待したいことは、職員・住民を励ましてくださること

す。具体的には、公民館の宣伝・広報、公民館の活動や行事に参加しようとしている人へのケア、公民館活動の企画運営のお手伝いなどです。公民館ボランティアと相談して活躍の場を作ります。

・地域内外の人が気軽に立ち寄れる空間づくり（新規利用者の確保）

⑤ 目的別スペースまたはフリースペースの開設

各公民館の特色を活かし、目的や利用者のニーズに合わせた部屋や空間の使い方ができるようにします。たとえば、児童・生徒が勉強したり、市民・住民が読書をしたりするサイレントスペース、あるいは、子どもたちが集まって電子ゲームをしたり、住民が気軽に立ち寄れるサロンのようなスペースも考えられます。また、公民館コーディネーターと相談してフリースペース（自由・安全・安心の空間）を開設することも想定されます。公民館にフリースペースを設置した場合、特定の人が利用するというものがないような運営体制や緩やかなルールが求められるかもしれません。

⑥ 屋外イベントの開催

地域食堂や子ども食堂の屋外企画や、地域住民主催の朝市やフリーマーケットなどの、地域の屋外イベントをサポートします。公民館の資源を使っての交流・出会いの場を増やすとともに、イベントに来られた方への公民館活動 PR を行う場づくりにつとめます。

具体的には、スペース・インフラ（電気・水道等）の使用、備品の貸し出し、名義貸し、広報・宣伝の支援などが想定されます。

⑦ 公民館に「学習よろず相談窓口」を開設

職員や公民館ボランティアが、公民館活動や地域行事などの具体的な情報をお知らせしたり、それへの参加について相談にのったりする「学習よろず相談窓口」を設けます。

その他、暮らしに関する各種の相談も受け、必要に応じて専門機関につなぐことができるような体制づくりにもつとめます。

・STEAM ラボ⁷関連事業の強化

⑧ 「公民館 STEAM ラボ」の運営担当としての公民館職員の配置・育成

担当者は、社会教育プロデューサーと相談しつつ各公民館の特性を整理し、小・中学校、民間事業者と連携して、STEAM 教育（「総合的な学習」「探究学習」など）をサポートするとともに、各公民館で特色のあるテーマを設定して生涯学習事業企画を立案・運営しま

⁷ STEAM 教育を推進するための専用教室。市内の小中特別支援学校、公民館、総合教育センターに設置され、ZoomRooms、360 度カメラなどが納入された。これにより、市内の各施設をオンラインで結ぶ遠隔授業などが可能になった。

す。また、全住民がSTEAM教育/学習に「見る」・「触れる」・「参加する」を経験するための機会を増やすために、ITを使った情報伝達システムなどを構築していきます。

2. 中長期的戦略

- ・ 公民館へのアクセシビリティ（利用のしやすさ・交通の便）の改善

⑨ 公民館へのコミュニティバスの運行

加西市では、公民館へのアクセス方法として、電車やバスなどの公共交通手段がありません。そのため、免許を返納した高齢者などは交通手段の確保が難しく、交通の便を改善することは急務であると考えます。

そこで、現在、運行している加西市コミュニティバス「KASAI ねっぴ〜号」「はっぴーバス」の停留所に公民館を組み込むことや、日吉・宇仁校区で導入されている地域主体型交通⁸や新中学校の通学バスの活用も検討していきます。

⑩ 施設のバリアフリー化の促進

階段の手すりやスロープの設置など、比較的小規模なものから公民館のバリアフリー化に取り組みます。また、当事者性の高い人によるバリアフリー検討ワーキンググループを組織し、より必要とされているバリアフリーや合理的配慮の提供について検討することにより、誰もが利用しやすい施設を目指します。

- ・ 民間の教育資源の活用や連携促進のための規制の緩和や方策の開発

⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正

より多くの人の利用を促進し、公民館を学びのプラットフォームとするためには、現在の施設利用制限を緩和することが必要であると考えます。そこで、営利団体であっても社会公共性の高い目的であれば利用可能となるよう、利用対象範囲を拡大すること、加西市との関連のある団体の施設利用・減免の取扱について規制緩和を行うことなどを検討します。

⑫ オークタウン加西を核とする「KASAI 体験ネットワーク」（仮）の形成

学習・文化・スポーツ活動などを通して「加西・KASAI」を体験できる仕組みや、体験型の加西観光プログラムを提供するような、公共施設と民間宿泊施設の連携・協働活動の促進を検討すべきではないかと考えています。その中心に、NEW オークタウン加西を位

⁸ 地域の方々が中心となり、行政・交通事業者と連携しながら、計画・運行・利用促進等に主体的に関わっていく公共交通。

置づけられないでしょうか。その実現のために、クロス・アポイント⁹などの雇用の仕組みを採用し、企業と行政が共同的に施設を運営したり、企画を考案したりすることのできる方策を検討します。

・地域の特色を活かした学習資源の開発とそのための環境整備

⑬ 各公民館の独自性・強みを生かした事業・運営

魅力のある公民館を作るためには、各地域の特色あるいは各公民館の独自性・強みを発見し最大限に活用することが重要です。4つの公民館で、具体的な学びのツールとなる人的・物的資源等を整理し、それを活かした事業を行います。

それらは、各公民館近隣の地域住民だけではなく、あらゆる市民・住民が学ぶことができる学習資源として、あるいは、STEAM教育の学習素材として全市的に活用されることとなります。

⑭ 学校、各種機関、団体との連携

地域の特色や公民館の個性を発見し、それを反映させた事業を行うには、公民館だけではなく、他の社会教育施設¹⁰や学校、地域内外のNPO、地縁的な企業との連携・協力が大切です。異なる立場や観点で多角的にとらえることによって、地域・公民館の個性・特性が見えてくることになるでしょう。

その意味で、公民館は、多様な組織・団体の職員やスタッフが集って地域の学習・文化活動を創発する拠点にならなければなりません。公民館は、自らの個性・特性あるいは地域の特色をはっきりさせるためにも、地域の音頭取りの役割を担わなくてはなりません。それを可能にする人的・物的整備をできるだけ早く整えていきます。

⑮ 社会教育関係者¹¹らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

社会教育プロデューサーを中心とする社会教育プロモーションチームでは、公民館における各種事業の企画・実施及び施設整備等について協議をします。公民館の活性化や社会教育の進展に寄与する事業を創発していきます。いわば、音頭取りチームです。

⁹ 研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定のエフォート管理の下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度。

¹⁰ オークタン加西、図書館等

¹¹ 公民館利用者、社会教育推進員、公民館コーディネーター、館長、ボランティア団体・NPO・企業・社会教育関係団体のリーダーなど。

・市民・住民が、個人的な問題から地球的な課題まで、多層多元的なテーマと自由につながる学びのプラットフォーム（乗り換えポイント）づくり

⑩ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり

全世代向けに SDGs 講座(持続可能な社会づくり講座)を主催事業のひとつにするなど、持続可能な社会づくりに向けての学びを促進します。

⑪ グローカル ESD（持続可能な開発のための教育）の拠点としての機能拡張

加西市外のグローバルな活動やその推進組織（国連などの国際機関、高等教育機関、国内の ESD 推進団体など）と連携・協働して事業を実施するほか、住民がスタディツアー¹²など市外のプログラムや事業に参加しやすい環境・条件を整える拠点とします。

⑫ 多様なつながり・交流を生む IT 社会に対応した施設の発展・整備

VR 公民館¹³、Eスポーツ¹⁴、SNS のオフ会空間（音響設備完備室）の整備・拡充など、STEAM 教育に住民が「触れる」「参加」「体験」しやすい環境を整えます。

¹² 体験学習や現地の人々との相互理解などを目的として、現地視察、ボランティア活動などを行う旅行。

¹³ バーチャル・リアリティ装置を使って体験ができる「バーチャル体験型公民館」。

¹⁴ 「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般。

IV 未来に向けた戦略の整理

以下は、目標ごとに各戦略を分類し直したものです。各目標に対して、さらに戦略を充実させることが求められます。今後とも市民・住民のみなさんや、内外の関係者と相談して未来を創造するための戦略を練り上げていきます。

A だれでも自由に「楽しめる」公民館を

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成
- ③ 職員体制の充実

<中長期的戦略>

- ⑩ 施設のバリアフリー化の促進
- ⑮ 社会教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ
- ⑰ グローカル ESD（持続可能な開発のための教育）の拠点としての機能拡張

B 居場所として、いつでもだれでも気軽に「立ち寄れる」公民館を

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成
- ③ 職員体制の充実
- ④ 「公民館ボランティア」の活躍の場づくり
- ⑤ 目的別スペースまたはフリースペースの開設
- ⑥ 屋外イベントの開催

<中長期的戦略>

- ⑨ 公民館へのコミュニティバスの運行
- ⑮ 社会教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

C 多様な人・活動と「つながれる」公民館を

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成
- ③ 職員体制の充実
- ⑧ 「公民館 STEAM ラボ」の運営担当としての公民館職員の配置・育成

<中長期的戦略>

- ⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正
- ⑭ 学校、各種機関、団体との連携
- ⑮ 社会教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ
- ⑯ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり
- ⑱ 多様なつながり・交流を生む IT 社会に対応した施設の発展・整備

D 住民の「ふだんの暮らしを幸せにする」公民館を

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成
- ③ 職員体制の充実
- ④ 「公民館ボランティア」の活躍の場づくり
- ⑦ 公民館に「学習よろず相談窓口」を開設

<中長期的戦略>

- ⑨ 公民館へのコミュニティバスの運行
- ⑩ 施設のバリアフリー化の促進
- ⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正
- ⑭ 学校、各種機関、団体との連携
- ⑮ 教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

E 住民が「互いの持ち前を学び合う」公民館を

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成

ター) を配置・育成

③ 職員体制の充実

<中長期的戦略>

⑬ 各公民館の独自性・強みを生かした事業・運営

⑮ 教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

⑯ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり

F 住民が「社会を変える動きにワクワクできる」公民館を

<短期的戦略>

① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置

② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成

③ 職員体制の充実

④ 「公民館ボランティア」の活躍の場づくり

⑥ 屋外イベントの開催

<中長期的戦略>

⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正

⑮ 教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

⑯ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり

G まちに学びが波及する起点としての公民館を

<短期的戦略>

① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置

② 各公民館に、社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員（公民館コーディネーター）を配置・育成

③ 職員体制の充実

⑧ 「公民館 STEAM ラボ」の運営担当としての公民館職員の配置・育成

<中長期的戦略>

⑭ 学校、各種機関、団体との連携

⑮ 教育関係者らによる「社会教育プロモーションチーム」の立ち上げ

⑯ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり

H 青少年の探究的な活動を支援する場に

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ③ 職員体制の充実
- ⑧ 「公民館 STEAM ラボ」の運営担当としての公民館職員の配置・育成

<中長期的戦略>

- ⑫ オークタウン加西を核とする「KASAI 体験ネットワーク」(仮)の形成
- ⑰ グローバル ESD (持続可能な開発のための教育)の拠点としての機能拡張

I 「加西に帰りたい」をサポートする場に

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ③ 職員体制の充実

<中長期的戦略>

- ⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正
- ⑫ オークタウン加西を核とする「KASAI 体験ネットワーク」(仮)の形成

J 加西から地球を感じ考える研修の場に

<短期的戦略>

- ① 生涯学習課に、社会教育主事または社会教育士の資格をもつ「社会教育プロデューサー」を配置
- ③ 職員体制の充実

<中長期的戦略>

- ⑪ 社会教育に関する条例・施行規則の改正
- ⑯ 持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり
- ⑰ グローバル ESD (持続可能な開発のための教育)の拠点としての機能拡張

※短期①から④は、基本的に A~G すべての目標の戦略としています。

おわりに 社会教育と加西の未来に向かって

本基本計画を作成・発表することで市民・住民および関係するみなさんにお伝えしたいのは、公民館等の社会教育施設のあるべき姿とその実現に向けての戦略だけではありません。最も感じ取っていただきたいのは、われわれ策定メンバーの社会教育に寄せる大きな期待と希望です。

公民館等の社会教育施設は、住民の学びを支える、あるいは、学ぶということ自体の価値を地域・社会に広げるといふだけの単純な学習支援施設ではありません。その原点にあるのは、あらゆる人の居場所として、あらゆる世代の人が「生きる・働く・学ぶ・遊ぶ」ことにワクワクでき、互いに自己実現する場としての大切さです。つまり、改めて主張しておきたいのです、「居場所をプラス ワクワクをプラス」の大切さを。

さらに、互いによく知らない人同士が、その持ち前（個性的な当事者性）を理解し合い、認め合い、影響しあうことで、個人的かつ社会的な多様な課題や問題を解決する集合的な「力」が湧き出るような場になってほしいとも願っています。社会の多様性が高まる一方、気が向かないことには関わらない人たちが増えているようにも思われます。多くの課題や問題は、実は、濃淡がありながらも多くの人に関係しています。一見無関係に思われる人たちが当事者性の高い人々と協力し合うことによって解決を得られるとあってよいでしょう。学校でのいじめ・不登校、ひきこもり、ジェンダー、地域内の経済格差、自然破壊、食糧問題、エネルギー問題、地球環境問題等々の諸問題などは、多様な当事者性をもつ人々の集合的な力がなくては解決できない「個＋コミュニティ＋社会」的な問題や課題です。今こそ、多くの異なる当事者性をもった人々がつながり、互いの持ち前を生かしながら動くべき時でしょう。公民館は、そうした集合的な力を生むための「つながりを育む」場になれないでしょうか。

われわれ策定メンバーは、公民館等の社会教育施設が、一人ひとりの「居場所」であり、ワクワクする出会いを感じとる場であり、同時に、学びが地域社会に波及する拠点となり、人も変わり社会も変わる力の源としての「つながりを育む」場になってほしい、と考えています。そして、こうした社会教育の総体としての姿を、「学びのプラットフォーム」と名付けました。多様な人が行き来し、経験・情報・資源・技術を交換し合い、あらたな友達・知り合いが出来たり、新しい活動やテーマへの関心が生まれたりする場のことです。

学びのプラットフォームは、単体としての社会教育施設では成り立ちません。他の公民館や図書館、学校との連携はいうまでもなく、一定の専門性をもつ行政各部署、NPO や市民の活動現場、民間文化産業や企業の社会貢献活動とのネットワーク、あるいは、加西市以外の

まちや国との具体的なパイプがあってこそ、プラットフォームの意義は増します。いわば、網の目のようにつながるネットワークがあってこそ、プラットフォームが生きてきます。本基本計画は、加西市の公民館およびオークタウン加西のあり方について提言するものですが、「学びのプラットフォーム」として社会教育施設が機能するためには、社会教育以外の組織・団体の協力が不可欠だと考えています。教育委員会の壁を越えて、多様かつ広汎なネットワークを作りつつ、新しい社会教育の未来を創造したいものです。

「居場所をプラス 全世代のワクワクをプラス
つながりを育む 学びのプラットフォームに」

新しい社会教育のしくみを実現するために、短期・中長期の戦略を提示しました。しかし、公民館・オークタウン加西のブラッシュアップと加西の底力の蓄積は並行的であろうと思います。市民・住民のみなさん、関係する組織・団体のみなさん、ぜひ力を合わせましょう。社会教育の活性化のみならず、加西・KASAIの未来を創造するために、改めて、みなさんのご支援、ご協力をお願いする次第です。

加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会委員長
松岡広路

加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会委員名簿

(敬称略)

	役 職	氏 名
1	神戸大学大学院教授	委員長 松岡 広路
2	社会教育委員会委員長	副委員長 谷勝 公代
3	社会教育委員会副委員長	岡本 教穂
4	北条中学校区代表区長	藤本 文俊
5	善防中学校区代表区長	櫻井 臣義
6	加西中学校区代表区長	岩佐 文雄
7	泉中学校区代表区長	国田 徹也
8	公民館登録グループ代表	植田 美紀子
9	オークタウン加西利用者代表 生涯学習の普及啓発事業経験者	菅野 将志
10	播磨東教育事務所教育振興課 主任指導主事兼社会教育主事	達可 有呉
11	前加西市公民館長	泉 育代
12	学校教育課長補佐兼指導主事	藤田 亮
13	公民館長・オークタウン加西 館長代表	大藤 由美
14	公民館長・オークタウン加西事務職員代表	前田 恵美